

---

# NARUTO～転生先はうちは一族？

短剣

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

NARUTO～転生先はうちは一族？

### 【Zコード】

Z9901R

### 【作者名】

短剣

### 【あらすじ】

神の不手際で死んだ主人公は能力をもつて、NARUTOのうちは一族に転生する。

\* \* \* この小説は一次創作です。ご都合主義・オリ主最強・不定期更新などの成分が含まれているのでご注意ください。

## プロローグ

今日の前には神様と名乗る老人がいる。何でも俺は鉄骨の下敷きになつて死んだらしいのだが、実際には助かる筈だったのに不手際で死んでしまつたらしい。

「すまなかつた。このとうりだ。」

「頭を上げてください。俺は気にしてませんから。」

「そうか。だつたら願いつきで転生させてやろ。」

「場所は？」

「NARUTOのうちは一族でどうかの？」

「いいですよ。数は？」

「何個でもいいぞ。」

「じゃあ、失明しない万華鏡写輪眼、輪廻眼、強力な結界が張れるようになると、イタチの弟・サスケの兄として生まれることです。」

「それなら可能じゃ。では新しい人生を楽しむといい。」

「ありがとうございました。」光に包まれ意識がなくなつた。

初めまして。無事に転生したうちはシスイです。今2歳になりました。容姿は前世の時と同じで黒髪・黒目です。

ちなみに生まれた時から万華鏡写輪眼を開眼したのですが、コントロールができていないのかずっと万華鏡写輪眼の状態なので1部のうちちは一族と仲が悪いです。親も仲が悪いような悪くないような状態です。兄のイタチだけは仲がいいです。双子のサスケとシズクは生まれたばかりなので成長した時の反応が楽しみです。名前はイタチとシスイさんが仲が良く、名付け親として自分の名前を付けてくれました。

当面の目標はナルトに九尾が封印されるのを防ぐことと万華鏡のコントロールができるようになること、実力をつけることです。

実力をつけるために輪廻眼の7道の練習をしようとしたら神様から輪廻眼はしばらく開眼しないと言われたので、万華鏡のコントロールを手伝つてもらつた。神様に手伝つてもらつたおかげでなんか日常は普通の田で送れるようになりました。

「さてと、どうしよう？」

今日の前には4代目火影、クシナ、ナルト、九尾が居るんだが、いつ飛び出そう？

考え込んでると、九尾を縛っていたクシナの鎖が解け、ナルトを殺そうとしてた。

「やべえ。天照！」

ナルトの前に発動したおかげで九尾が止まり、「誰だ！」

4代目火影にばれた。

「別に怪しい者じやないですよ。」

隠れていた場所から姿を見せる。

「君は・・・」

「4代目、今のうちにその子との別れを済ませといてください。それと九尾は僕に封印してください。」

「それはできない。」

「別に大丈夫ですよ。一族とは仲が悪いですし、細かいことは気にしませんから。」

「・・・分かった。」

「早くしてくださいね。ある程度しかもたないんで。」

空間忍術で九尾を異空間に飛ばしたが、もって1分だろう。

それから4代目達はナルトと挨拶をし、準備が終わつた瞬間九尾が戻ってきた。

「4代目早く！」

「八卦封印！」

「つ！」

九尾は封印されたが、俺自身は激痛で動けなかつた。

その後3代目にナルトと一緒に発見され、里に戻つた。

「此処は何処だ?」「  
「気が付いたよ!じやの。」  
「3代目…」  
「幾つか聞きたい事があるんじやが良いかの?」  
「いいですよ。」  
「何故万華鏡写輪眼が使える?」  
「それは俺じやあ分からないので親に聞いてください。」  
「九狐はどうした?」  
「此処に居ますよ。」  
自分の腹を指す。  
「最後の質問じや。何故九狐を封印した?」  
「4代目の子供は嫌われるべきじやない。その点俺は一族と仲が悪いですし、細かいことは気にしませんから。」  
「そうか。長々とすまなかつたの。」  
「いえ、気にしてませんから。それじやあ。」  
・・・・・  
「おお、想像はしてたけど酷いな。」  
「一族のほとんどが俺を見る目に変化がある。」  
「まつ、気にしないけどね。」  
無視をして家まで帰つてると、途中にイタチ兄さんと父親がいた。  
「誰かをお待ちですか?」少しふざけて聞くと、  
「・・・」  
「シスイ!」  
父親は無言、イタチ兄さんは怒つて注意してきた。  
「兄さん、ちょっとふざけただけなんだから怒らなくとも良こよ。」  
「シスイ、話がある。」

「あつそ。じひちには話すこととは何も無いよ。」

今さら何言つてんだか。何度も話の機会を作つてたのに話をしなかつたのはやつちだ。

「とにかくじひちは話す気はないから聞きたいんなら3代目に聞いて。」

そつまつて家に向かつて歩いて行つた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9901r/>

---

NARUTO～転生先はうちは一族？

2011年11月27日15時46分発行